

2018年の回顧と新年の展望

～ 2018年の回顧 ～

国内景気～緩やかに回復

2018年の国内景気を振り返りますと、年初は堅調な海外経済を背景に輸出関連産業を中心に生産が高水準で推移したほか、設備投資や個人消費にも底堅い動きがみられるなど、緩やかながら回復基調で推移しました。しかし、夏場以降は度重なる天候不順や自然災害などの影響を受け、生産や輸出が増勢鈍化するなど、一部に弱い動きがみられました。

項目別にみますと、個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に総じて底堅く推移しましたが、夏場以降は西日本豪雨や猛暑、台風、地震などの影響により一服感が窺われました。また、天候不順に伴う生鮮食品の高騰や原油価格の上昇も家計の重しとなりました。

設備投資は、企業収益が高水準にあるなかで、増加基調で推移しました。人手不足に対応するための合理化・省力化投資が拡大したほか、研究開発投資も底堅く推移しました。また、東京オリンピック・パラリンピックに向けたインフラ関連投資も底上げ要因となりました。

生産は、堅調な外需を背景に輸出が緩やかに増加するなか、高水準で推移しました。ただし、夏場以降は、自然災害の影響による工場の操業停止や関西国際空港の一時閉鎖、米中貿易摩擦の影響などを受け、減産の動きもみられました。

県内景気～緩やかに回復

県内景気を振り返りますと、好調な機械工業がけん引役となり生産活動が増勢を維持したほか、設備投資や個人消費も持ち直しの動きが続くなど、全体として緩やかに回復してきました。

項目別にみますと、個人消費は年央に足踏みがみられたものの、期間全体では持ち直しの動きが続きました。大型小売店販売は、夏場に猛暑や自然災害の影響で客足が鈍りましたが、年間を通じて主に食料品が堅調に推移しました。家電品販売は、エアコンなどの白物家電を中心に堅調に推移した一方、乗用車販売は、年間を通じて弱い動きが続きました。

設備投資は、高稼働が続く機械工業など製造業を中心に生産能力増強投資が活発化したほか、宿泊施設や物流施設などにも動きがみられるなど、幅広い業種で回復が続きました。また、公共投資は、概ね前年を上回る動きが続いた一方、住宅投資は、持家、貸家ともに一進一退の推移となりました。

生産は、機械工業が増勢を維持しました。世界的な設備投資需要の拡大が、半導体製造装置や工作機械などの産業が集積する山梨県にとっての追い風となり、鉱工業生産指数は全国平均を大きく上回る水準で推移しました。ただし、秋口以

降には、スマートフォン向けのメモリー需要減退や米中の貿易摩擦を受け、半導体製造装置で増勢鈍化がみられました。一方、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業は、取扱品目や販売チャネル等によりばらつきがあるものの、節約志向や輸入品との競合などから、全体としては厳しい局面が続きました。

なお、観光関連をみますと、国内客が減少傾向で推移したものの、外国人観光客の入込みは過去最高水準となり、特に富士山周辺で賑わいがみられました。本県においては、中国や台湾など中華圏からの観光客が引き続き多くを占めていますが、海外で世界文化遺産・富士山の認知が進んだことから、特にベトナムやマレーシアなど東南アジアからの観光客が大幅に増加しました。

～ 新年の展望 ～

国内景気～緩やかな回復基調を辿る

2019年の国内景気は、良好な雇用・所得環境が続くなかで個人消費が堅調さを維持するほか、安定した企業収益を背景とした設備投資の増加が下支えとなり、緩やかながら回復基調を辿るとみられます。ただし、米中貿易摩擦やその世界経済への影響、欧州における政治・経済の不透明感の広がり、10月に予定されている消費税率引き上げの影響などが攪乱要因として景気を下押しする可能性があり、注視していく必要があります。

項目別にみますと、個人消費は良好な雇用・所得環境に支えられ、堅調に推移するとみられます。消費税率の引き上げについては、前回と比べて引き上げ幅が小さいこと、軽減税率の導入や幼児教育無償化などの諸施策が予定されていることから、影響は比較的小規模なものにとどまるとみられますが、駆け込み需要や反動減による一時的な増減には注意が必要です。

設備投資も、安定した企業収益を背景に、底堅い推移が見込まれます。東京オリンピック・パラリンピック関連のインフラ投資は一巡すると考えられますが、引き続き人手不足への対応投資や、IoTの活用促進を図るための研究開発投資の増加が見込まれるほか、インバウンド向け関連施設投資や首都圏の再開発投資なども押し上げ要因となります。

生産活動は、堅調な内外需に支えられ、増勢が続くとみられます。海外経済は製造業を中心にやや減速感が窺われるものの、基調としては回復が続くとみられることから、輸出がペースを鈍化させつつも緩やかな増加傾向で推移すると考えられるほか、国内における設備需要も高水準となることが見込まれています。ただし、海外の政治・経済や米中貿易摩擦の動向如何では、輸出が腰折れする可能性もあるため注意が必要です。

県内景気～緩やかな回復が継続

県内景気は、生産面において機械工業がけん引役となり、企業収益や雇用・所得環境の改善を通じて、設備投資や個人消費に更に波及していくことが期待されますが、一部の産業で先行き不透明感が台頭するなか、回復のペースは緩慢なも

のにとどまるものと見込まれます。

項目別にみますと、個人消費は生産面の好調を背景に雇用・所得環境の改善が見込まれることから、持ち直しの動きが続くとみられます。

設備投資も、回復基調で推移すると考えられます。引き続き機械工業で生産能力増強投資が増加していくことに加え、人手不足対策として合理化・省力化投資需要も一定の水準を維持していくことが予想されます。なお、「県内企業経営動向調査」（山梨中央銀行）の2018年度下期（2018年10月～2019年3月）の設備投資計画においては、実施予定率が前期をやや下回る一方、投資額では前向きな姿勢が窺われます。

生産は、全体としては堅調を維持するとみられますが、半導体製造装置など一部で先行き不透明感が台頭するなか、前年と比べると増勢が鈍化する可能性があります。一方、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業においては、人口減少等により国内需要が伸び悩むなか、機械工業と比べると厳しい状況が続くと考えられます。ただし、その一方でインターネット等を活用した販売チャネルの拡大、海外への販路拡大など従来とは違うビジネスチャンスも生まれているなかで、国内需要の減退をカバーするための取組みが進められていくと考えられます。

～ 亥（イノシシ）の話 ～

2019年は、亥年です。亥（猪）は、哺乳綱偶蹄目イノシシ科に属する動物です。ユーラシア大陸やアフリカ大陸北部に広く生息しており、北アメリカやオーストラリアなどにも分布しています。

猪は短い脚と寸胴に似た体形という見た目であるにもかかわらず、優れた運動能力を持ちます。時速45kmで走ることも可能であるほか、助走なしで1m以上の障害物を飛び越える高い跳躍力を有しています。また、嗅覚も非常に優れており、犬の嗅覚に匹敵すると言われていています。

猪と人類の付き合いは古く、古来より家畜用として飼育されていたとのことです。猪が家畜として飼育慣らされたものが現在の豚にあたるため、猪と豚は同じ祖先ということになります。因みに、「亥」と書くと日本では「猪」を意味しますが、中国では「豚」を意味します。

また、猪は日本人にとっても馴染みのある動物のひとつとなっています。県内の安堂寺遺跡をはじめとする縄文時代の遺跡から発掘された土器の文様には猪のデザインが見つかるほか、弥生時代の銅鐸にも猪がモチーフとして描かれているなど、古代の人々の生活に密着した動物であったことが確認されています。

日本に生息している猪はニホンイノシシとリュウキュウイノシシの二亜種です。ニホンイノシシは、本州、四国、九州を中心に分布しており、ニホンイノシシよりも小型のリュウキュウイノシシは、沖縄本島、奄美大島、石垣島、西表島などに分布しています。

猪は多産であることから、昔から子孫繁栄のシンボルになるなど縁起の良い動物とされています。陰暦の亥の月（10月）、亥の日、亥の刻（午後9～11時）に、万病にかからず、子宝に恵まれることを願い、「亥の子（いのこ）餅」を食べる「亥

の子祝い」と呼ばれる風習が現在でも残っています。また、猪は昔から田の神・作物の神とされ、神聖な動物として崇められており、10月10日には「十日夜（とおかんや）」と呼ばれる田の神を祝う行事もあります。さらに、猪は、その勢いの良い動きから、武勇の神として信仰を集めた摩利支天の使いとされています。毎年1月の亥の日は「初亥」と呼ばれ、摩利支天をお参りすると、護身、富裕、勝利をかなえてくれると伝えられています。

京都御所の西側にある護王神社は別名“いのしし神社”と呼ばれ、境内には狛犬の代わりに狛猪が建てられています。護王神社の御祭神である和氣清麻呂公は、弓削道鏡によって足の臑を切られた上に、九州の山奥に流刑となりましたが、山の中から突然現れた300頭の猪が清麻呂公を守って道案内を行い、その後、清麻呂公の足が不思議と治り、立って歩くことができるようになりました。このことから、護王神社には足腰の病気や怪我の回復を願う参拝者が多く訪れています。

わが国の亥年の歴史を振り返りますと、白村江の戦い(663)、応仁の乱(1467)、宝永地震、富士山の宝永噴火(1707)、関東大震災(1923)、平成天皇・皇后のご結婚、伊勢湾台風襲来(1959)、ニクソン・ショック(1971)、地下鉄サリン事件、阪神淡路大震災(1995)、新潟県中越沖地震(2007)などの出来事がありました。

山梨県関連では、山梨県師範学校発足(1875)、中央線全通(1911)、小海線全通(1935)、甲府バイパス開通、河口湖大橋開通(1971)、東京ディズニーランド開園(1983)、上九一色村のオウム真理教本部に強制捜査(1995)、NHK大河ドラマ「風林火山」放送(2007年)などの出来事がみられました。

なお、亥年生まれの名人としては、アーネスト・ヘミングウェイ、宇多田ヒカル、大江健三郎、岡本太郎、堺屋太一、司馬遼太郎、土屋太鳳、ビートたけし、星野仙一、ミランダ・カー、柳田国男、山口百恵などがいます。

陰陽五行によると、2019年は「己亥（つちのと・い）」にあたります。「己」は草木が繁茂し形が整然とした状態を意味しています。また、「亥」は草木が枯れ果て生命力が種子の中に閉ざされた状態を意味しています。このため、「己亥」は、「今現在の状況を維持しながらも、より成長するための準備を行う年」ということになるのでしょうか。

最近、目まぐるしいスピードで社会環境が移り変わっています。こうした時代を勝ち抜いていくためには、現状の体制をより充実させていくといった守りの姿勢も大切ですが、一方で、猪のような力強いバイタリティを持ち、新しいことにチャレンジしていく攻めの姿勢も必要です。2019年は猪突猛進で目標に向かって突き進むとともに、翌年以降の飛躍に向けた良い準備期間となる1年にしたいものです。

※亥（イノシシ）の話は、十二支の民俗誌（八坂書房）などから当社で作成

※こちらの資料は毎年12月に当社ホームページ
(<https://www.yamanashiconsul.co.jp/>) に
掲載しますので、是非ご活用ください。

2018年12月
山梨中銀経営コンサルティング株式会社